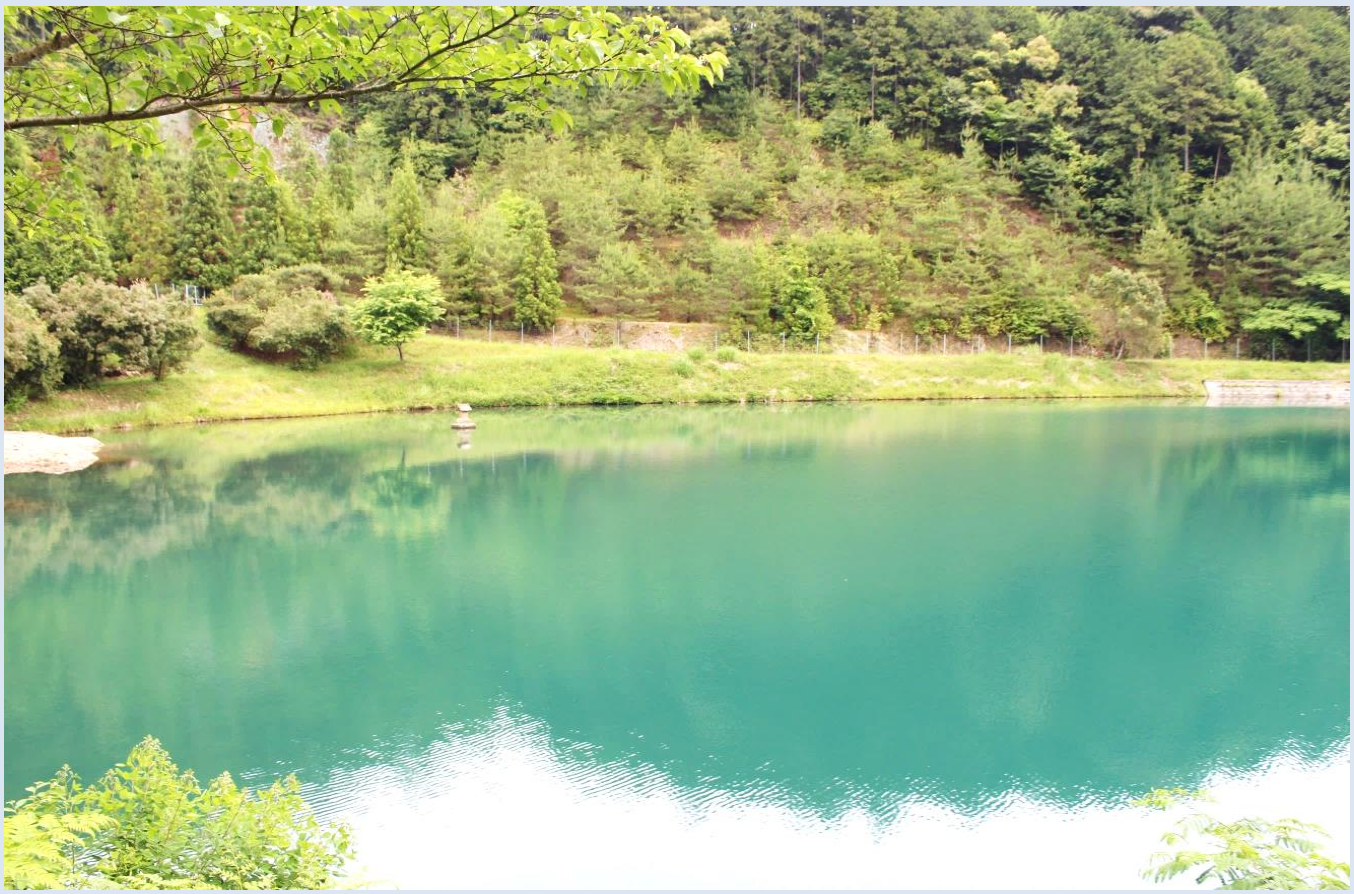
船城地区地域史講座

歴楽 *FUNAKI*

山田　若宮神社

鎮座地



神秘的なブルーグリーンの水に魅了される「宮ノ越池」と「弁天さん」（池の中の祠）

池のほとりには石燈籠や手水鉢が奉納されており、神域の池であることを感じさせます。

石燈籠の竿には
「**奉造立妙見大菩薩**
寛延二年（１７４９）
山田村」
と刻まれています。

手水鉢の正面に
「**宝暦五亥天**（１７５５）**五月日**
氏子中
奉造立
世話人
荻野□次郎
井上新一郎
荻野勘七郎」
と刻まれています。

石燈籠の竿には
「**奉献御神燈**
安永九子（１７８０）
十一月吉祥日
山田村　夜念仏連中」
と刻まれています。

基礎情報

『自治会資料』『春日町誌』より

祭神

天児屋根命（あめのこやねのみこと）
相殿　天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）
伊弉諾命、伊弉冊命（いざなぎのみこと、いざなみのみこと）
境内社　天神さん　大腹さん　天王さん　行者さん　山の神
お不動さん　宮ノ越池の弁天さん

由緒

創建の由緒は不明
明治六年（1873）十月　村社となる
明治四十二年（1909）二月九日
山田字大山にあった日吉神社、字小谷の神明神社を合祀
※なお、旧神明神社の境内には、古来から「御面塚」と称する丘があったのを発掘したところ、古鏡十数面と、古仏像数体とを発見したということである。
大正九年（1920）二月二十二日　拝殿新築
（『春日町誌』第1巻より）

祭礼

一月一日　初詣
一月第二日曜　妙見さんの祭り、もちまき
二月三日　節分
二月第一日曜　お日待ち祭
十月第二日曜　秋の例大祭

古記録に載る若宮神社

『丹波志』より

「下王子大明神」　山田北ノ山に建
祭神　祭礼九月九日　産神
近江国坂本山王一社ノ内下社ヲ祭社之
本社南向　舞殿三間四面　境内七十間に四十間除地

祭神（無記）　祭礼は9月9日、産土神。近江国坂本（現在の滋賀県大津市坂本）にある日吉大社のうち下社を祀った神社。　本殿は南向き、四面とも三間の舞殿がある。境内は七十間の広さがあり、そのうちの四十間は税金が免除されている。

「妙見社」　山田村
北ノ山裏三輪谷白竜寺村ノ地ニ入リ一丁余北所ニ建　山田村持社
南向　境内四十間四方
境内ニ面塚ト云有　面ヲ懸ル□妙見□玉フト云古面取レサリシヲ願シテ漸ク取ルハ則北取ニ埋ムト云
往古ハ田中ニ有之古跡ヲ今字フタゴ橋ト云所ニ塚有、
フタゴ塚ト云

北の山裏の三輪谷白竜寺村の地に入って一丁余り北に行ったところに建っている。山田村の所有する社である。　南向きで、境内は四十間四方。境内に「面塚」というものがある。面を懸けて「妙見□たまう」という古い面が取れなくなったのを（神さまに）お願いしてようやく取れたものを、北取に埋めたと言われている。昔は田中に古い跡があったが、今はフタゴ橋に塚があり「フタゴ塚」と言っている。

「山王社」　山田村　池上ト云所
南向　鳥居有　御手洗ノ池アリ　境内凡五十間四方
吉田帳下リ古社ナリ

南向きで鳥居がある。「御手洗の池」がある。境内はおよそ五十間四方。吉田（神社の）帳が下されたという古社である。

「八幡宮」　山田村　乾ノ山根ニ建
祭礼八月十五日　産神　社南向　鳥居アリ　境内凡五十間
四面ノ山之

祭礼は8月15日。産土神。社殿は南向きで鳥居がある。境内はおよそ五十間、（周囲の）四面の山（も社地）。

『丹波氷上郡志』より

明治四十一年十二月、
船城村山田小字小谷通稱妙見山なる堂宇（神寺臺帳に新明神社と登録せり）を
村社下王子神社に合祀のため取潰したる際、
發堀の古鏡十一面と、懸佛五六個、古錢數枚ありしが、
古錢は紛失したりといふ。（鏡は多分藤原期のものならんかとの説あり）、
發堀の場所は、古墳にあらず、
法華經の一字を徑壹寸位の石に記したるを埋めたる所にして
石槨又は石棺の形跡などは、更に認められず、
鏡は徑二寸五六分乃至三寸位にして裏面に菊模様あり。

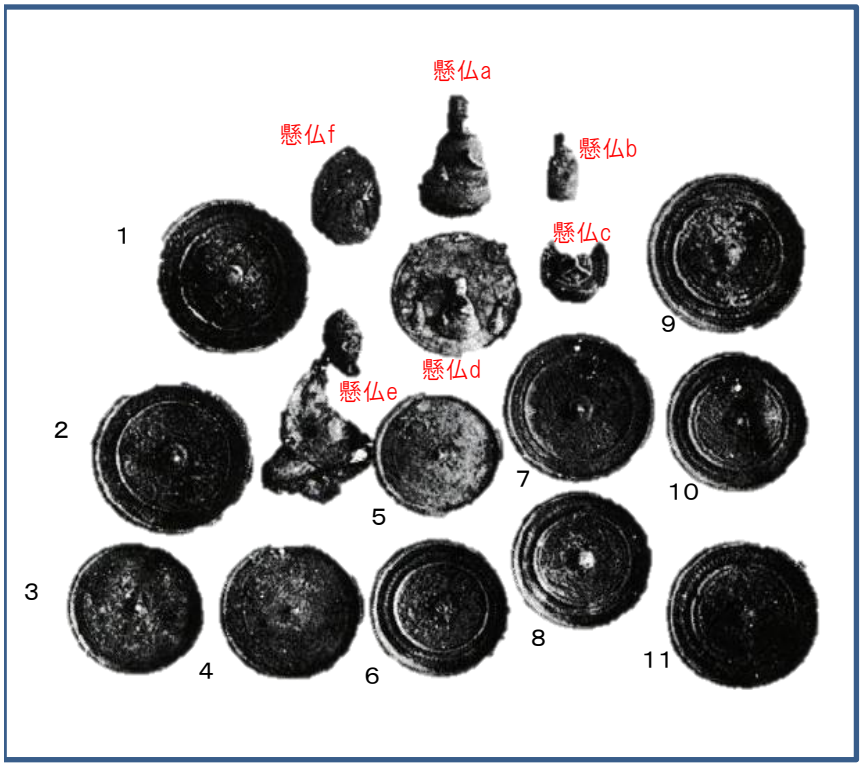
明治四十一年（1908）十二月、
船城村山田小字小谷の通称「妙見山」という堂宇（神寺台帳には「新明神社」と登録されている）を、
村社・下王子神社に合祀するため取り潰した際に、発掘したところ、
古い鏡が11面、懸仏5～6面、古銭数枚が出土したが、古銭は紛失したということである。
（鏡は多分、藤原期（平安時代）のものではないかとの説がある。）
発掘場所は「古墳」ではなく、法華経の中の一文字を直径1寸（約3㎝）くらいの石に記したものを埋めた場所で、
（古墳であれば埋葬施設としてあるはずの）石槨や石棺の形跡などは認められなかった。
鏡は直径2寸5～6分ないし3寸（8㎝～9㎝）で、裏面には菊の模様があった。

懸仏（かけぼとけ）
銅などの円板に仏像・神像の半肉彫の鋳像などを付けたもの。柱や壁にかけて礼拝した。平安後期に神仏習合思想の一つである本地垂迹（ほんじすいじゃく）の思想から生まれ、鎌倉・室町時代に盛行しました。

《参考》
奈良県出土の懸仏
13世紀のもの
文化遺産オンラインより

一字一石経（いちじいっせききょう）
経文の一字を小石に記したもの。死者の追善、現世利益・未来往生を願う。多くは地中に埋められました。

www.city.kobe.lg.jp/cultureより



古鏡（1～11）と懸仏（a～f）
懸仏dは完形をしています。他の仏像も円板から外れたものと思われます。

（船城村山田蔵）

獅子狛犬（参道）

―明治四十一年（1908）奉献の来待石製

台座に牡丹の花が浮き彫りになっていることなど尻尾が縦長に表現されていること、手足の先が大きくつくられていること、出雲地域の獅子狛犬の造形の特徴がよく出ています。

台石には「**明治四十一年春　願主　山田村　荻野□次郎　石□　野村　難波音吉**」と刻まれています。

「**明治四十一年春　願主　山田村　久下周□□　久下伊□□**」と刻まれています。

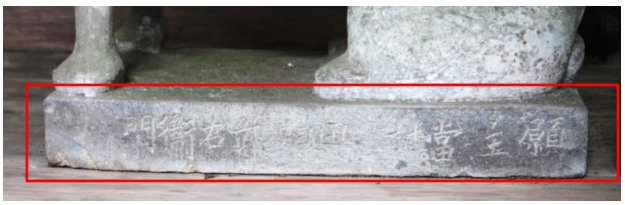
獅子狛犬（本殿）

―ほかに類を見ない希少な造形

「文政九丙戌歳九月吉日」
と刻まれています

左右に巻き髪2本、中央にまっすぐな3本を配した尻尾

前脚付け根の翼は流麗な線で彫られています



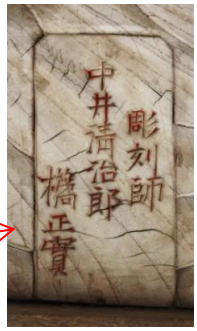
「願主　当村　田如武右衛門」
と刻まれています

タテガミは緻密な陰刻で髪の流れ巻きを表現しています

本殿・拝殿と彫刻

軒唐破風付銅板葺　の本殿　と　瓦葺の拝殿

口を大きく開き、ひげも同じ木材で共彫りをした丁寧なつくりの龍です。
下の梁には波、上の梁には若葉を施し、全体の調和も計算されています。



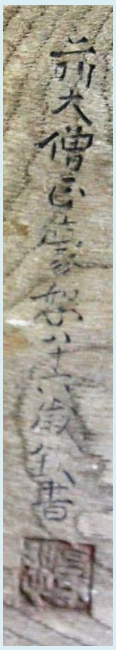
龍の裏側には、「**彫刻師　中井清治郎　橘正實**」の銘が刻まれています。中井家は、現在の丹波市柏原町に居住し、江戸時代後期から昭和にかけて、丹波～但馬～播磨地域で多くの社寺に豪華な彫刻を代々手がけた一族です。正實（まさざね）は、柏原藩陣屋彫刻をした中井岩吉（正用）の息子です。

獅子（吽）とバク（阿）

獅子（阿）とバク（吽）

扁額――旧扁額は著名な高僧・豪恕上人（ごうじょしょうにん）の書

下王子大明神（日吉大社の下社）に妙見堂（明神社）が合祀されたという古記録に従い、「日吉社」「若宮社」「明神社」の扁額が、現在は掲げられています。



前大僧正豪恕八十六歳欽書
（さきのだいそうじょう・ごうじょ・はちじゅうろくさい・つつしんでかく）

本殿に保管されている、以前使われていた「妙見宮」の扁額

豪恕上人（ごうじょしょうにん・1733－1824）

十七歳より比叡山延暦寺で修行し、寛政七年（1759）に大僧正となりました。円頓菩薩戒（えんとんぼさつかい）を、百万人ともされる多くの人々に授けた高僧で、民衆の間で非常に人気がありました。また、水脈や水利に造詣が深く、大津市普門村では溜池の開発に寄与、石碑が建てられています。

能筆家としても知られ、「家に上人の字を貼っておくと火災除けになる」と評判でした。直筆の作品の一部は大津市歴史博物館に収蔵されています。九十二歳まで生きられた、当時としては長寿のかたでもありました。

「妙見宮」額には八十六歳の時に記したとあり、文政二年（1819）のものとわかります。大変貴重な扁額です。

大津市歴博に収蔵されている豪恕上人の書

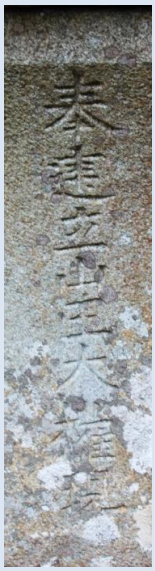
前大僧正豪恕欽書
（さきのだいそうじょう・ごうじょ・つつしんでかく）

以前使われていた「山王社」の扁額

鳥居や手水鉢、石燈籠など貴重な石造物も多い

「明治三十六年（1903）五月日
寄附主　井上藤兵衛　寄附主　荻野瀧右エ門」
と刻まれています。

正面には篆書で「頽**器**（かいき、頽**は顔を洗うという意味**）」、側面には楷書で「**天保六未年**（1835）**臘月**（ろうげつ、**旧暦十二月のこと**）**吉日**」と刻まれています。水に濡れるとさらに輝きを増す石材が使われている美



「奉建立　山王大権現」「寛政三亥（1791）**九月吉神日」「当村　氏子中」**　と刻まれた石燈籠

「奉造立　下王子大明神」「寛延二巳年（1749）**山田村」「九月吉日氏子中」**と刻まれた石燈籠

「春日神社石壇寄附
氷上郡舩城村
井上興市の母　のゑ
井上藤兵衛の□女　いと
明治卅九年　氏子中建之」

とあります。

女性の寄付者名が記された石碑は珍しいです。

「天保七丙申（1836）**紀元」「秋八月吉」**と竿に刻まれ、台石に**「山田村中　願主　若連中」**と刻まれています。

この他、石橋、玉垣など多くの石造物が、寄附されています。

社殿については、彫刻をした中井正實の活躍年代から、幕末～明治中期くらいまでの建立と考えられますが、確証はなく、今後、棟札や古文書類も確認させていただくことができれば、より明確になると思います。

また、社殿縁側におられる獅子狛犬についても、製作地などが明らかになれば獅子狛犬の研究にとっても貴重なものになると思います。

皆さまからさらなる情報をいただきたく、それらの情報も加え、より良い資料となるよう今後も努めてまいります。

船城自治協議会　地域史講座「歴楽*FUNAKI*」資料

令和元年(2019)年8月31日

資料製作　山内順子

無断転載を禁ず